

海上？階上？
開場？

平成20年度全国学力・学習状況調査の小学校国語Aに、次のような問題がありました。

- | | | |
|---|----------|--------------------------|
| ア | 【 】 | 会議や集まりなどが行われる場所。 |
| イ | 【 海上 】 | 海の上。海面。 |
| ウ | 【 】 | 集会や行事などをする場所を開いて人を入れること。 |
| エ | 【 階上 】 | 二階以上の建物の上の階。 |

【 】に適切な漢字を書く問題ですが、アとウはどちらが難しいと思いますか。

問題を見たときに感じたことは、【開場】という言葉は、子どもたちの生活の中では、見たり使ったりすることが少ないな。たぶんウの方が正答率が低いだろう。」というものでした。結果は次のとおりでした。

「開場」と解答	「開」は解答	「場」は解答	無解答
31.6%	2.7%	31.1%	22.7%

予想どおり、ウの正答である「開場」が書けた子どもは、30%程度にとどまりました。

漢字を書くこと
意味をとらえる
こと

この結果もそうですが、さらに気になったことがありました。それはアの【会場】についての結果です。

「会場」と解答	「会」は解答	「場」は解答	無解答
53.8%	10.2%	3.4%	24.6%

「なんだ、【開場】よりもよく書けているじゃないか。予想どおりじゃないか。」と思われたかもしれませんが、国語Aの他の問題と比べて気になったのです。

他の問題とは、次のような漢字を書く問題です。

- ・ボールをなげる ・かぜをよぼうする ・駅までおうふくする

これらは、5年生で学習する文字が含まれているにもかかわらず、平均正答率が6割から8割で、全国平均を超えているものもありました。この問題の結果と比べると、【会場】は2年生で学習する漢字の組み合わせであるにもかかわらず、正答が53.8%、無解答が24.6%でした。この結果はどうとらえたらよいでしょう。

【会場】という漢字が、平均正答率が6割を超えた「予防」や「往復」、8割を超えた「投げる」よりも、大きく難しいとは思われません。考えられるのは、同音異義語が並ぶと適切に書くことができないのかも知れないということです。

あるいは、一つの読みで示された漢字、例えば「場所」の「場（ば）」を「じょう」と読み替えることができないのかも知れません。また、文の中の漢字を書くことと違い、意味から言葉をつくり出すことが難しいのかも知れません。様々なことが想定できますが、このような問題に対応できる力が、今後子どもたちに必要な力であることは確かだと考えています。

学習の中で使う、 広げる

では、このような課題の改善のために、どのような指導が考えられるでしょうか。各学校で取り組まれている繰り返し学習に加え、様々な場面で漢字を使えるようにすることが必要であり、多くの場合次のような方法がとられているように思います。

- 新出漢字や読替の指導の時に、他の熟語や関係する語句も発表させ語彙を増やす。
- 意味調べの時に、同音異義語を取り上げる。
- 日記の中で習った漢字を使った子どもたちをほめる。

このような取組の中に、言葉の意味から漢字を推察させ、どうしてその漢字を用いたかという理由を話し合う活動を取り入れる工夫も必要です。話し合いの中で、漢字の意味が定着し、文章の意味に合う漢字を用いる力が付いていきます。

日々の授業改善 を

当然ですが、学習指導上の課題は学校ごとに違います。それによって、授業改善の方向性も異なりますが、どの学校でも調査結果を踏まえた具体的な取組を、日々の授業に無理なく組み込むことが大切だと思います。ここまで、漢字の学習について触れてきましたが、ここで、読み取りの力を高めながら書く力も高める指導の具体例を紹介します。

振り返りに視点 を示す

国語の授業において、振り返りとして書く活動が組み込まれている授業をよく見ます。だんだん書く量が増えてくる子どもの様子を見るのは嬉しいものです。

でも書かれた内容を見ると、国語の学習内容に関するものではなく、友達の発言のよさや話し合いの楽しさに終始しているということはありませんか。このような内容も意味があることですが、それに加え学習内容に関する記述がほしいなと感じることがあります。

このような時に次のような働きかけが効果的です。

今日の学習で分かったことを〇〇という言葉
を入れて書きましょう。



学習内容につながるキーワードやキーセンテンスを〇〇として示し、使うように投げかけることで、子どもたちは内容を整理することになります。例えば、『ごんぎつね』の最後の場面の振り返りの際には、「くりを固めておいた」というキーセンテンスを示します。子どもは、「ごんがくりを固めておいたのは、兵十に気付かれないようにそっとおいたからだと思います。そっとおかないと・・・」というように、内容とかわりのある振り返りにもなります。

高学年であれば、キーワードを提示するとともに、字数制限をするような働きかけも効果的であり、記述力を高めることにつながります。ちょっとした工夫で子どもたちの力を高めていきましょう。